

磐梯町 防災マップ

Bandai town disaster prevention map

大雨、洪水、土砂災害、地震などの
自然災害はいつやってくるかわかりません。

この防災マップを活用し、
地域に存在する危険箇所を把握して、
日ごろの備えと地域の自主防災活動に
取り組みましょう。



わが家の防災メモ

避難所

地震のとき：

大雨・洪水のとき：

土砂災害のとき：

離ればなれになったときの集合場所：

連絡先

氏 名	携帯電話	勤め先・学校の連絡先



磐梯町

町民の皆様へ

“豊かな自然とともに安全で安心な「ばんだい」”

近年、世界規模で自然災害が多く発生しており、日本国内において大規模な地震や大型台風、集中豪雨などによる洪水・土砂災害が発生し、各地で甚大な被害がでています。

本町においては、明治21年の磐梯山大噴火をはじめ、平成7年の豪雨災害などにおいては、大きな被害が発生しました。

また、平成23年の東日本大震災や令和元年10月の台風19号では、県内に大きな水害が発生し、あらためて防災への関心や意識の向上が求められています。

このような災害から、できるだけ被害を少なくするためには、自らの命は自ら守る「自助」、近隣の方がお互いに助け合って地域を守る「共助」、行政が施策として取り組む「公助」が基本であり、それぞれが適切に役割分担や連携することが重要です。

自然豊かな磐梯町には、様々な災害リスクが潜んでおり、自然災害がいつ起きても対処できるように、いざという時の減災対策を考えておく必要があります。日頃から住民一人ひとりが防災の意識を高く持っていただくことが大切であり、それが自分や大切な人を救うことにつながります。

今回、町では火山や土砂災害の災害時危険エリアや、AEDの設置場所(公設)など、様々な防災情報をまとめた「磐梯町防災マップ」を作成しました。

ぜひ、ご家庭の目に届くところに常備していただき、家族や地域での災害対策に役立てていただきますようお願い申し上げます。

令和5年2月
磐梯町

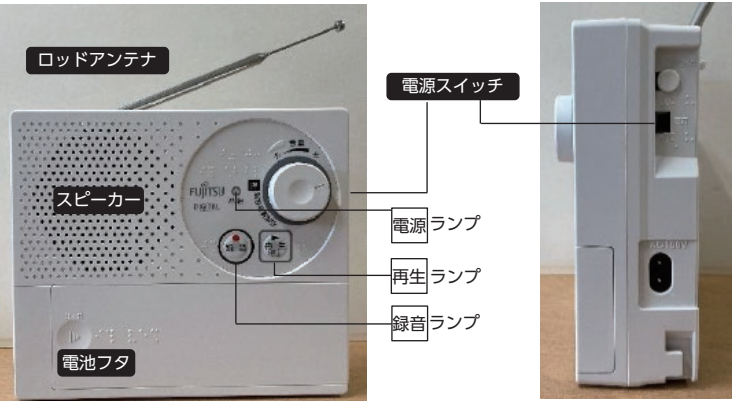
索引

町民の皆様へ・索引	1	指定緊急避難場所・指定避難所	14
防災行政無線・登録制メールについて	2	福祉避難所・AED設置一覧	
避難行動ガイド①	3	磐梯町全図	15・16
避難行動ガイド②	4	中心拡大図	17・18
特別警報をご存知ですか？	5	詳細図No.1	19・20
風水害情報について	6	詳細図No.2	21・22
土砂ハザード情報について	7	詳細図No.3	23・24
地震対策について	8	詳細図No.4	25・26
火災対策について	9	詳細図No.5	27・28
防災対策・非常時持出品	10	詳細図No.6	29・30
磐梯山に関する火山情報について	11・12	詳細図No.7	31・32
ライフライン・医療機関・行政関係機関連絡先一覧	13	詳細図No.8	33・34

防災行政無線・登録制メールについて

防災行政無線の基本操作

「防災無線の不具合」のお問合せのほとんどが電池交換等に関することです。下記の電池の交換方法をご確認ください。災害発生に係る情報は、テレビ・インターネットのほか町の防災行政無線で放送します。災害に備えて、日頃から戸別受信機の使用方法について正しく理解しましょう。



電池の交換方法



戸別受信機のランプ

○正常な状態			
電源ランプ	緑	点灯	正常な状態
	橙	点灯	放送が流れているとき
再生ランプ	緑	点灯	未再生の録音放送があるとき
録音ランプ	白	点灯	録音設定が有りの状態
		消灯	録音設定がなしの状態
		点滅	録音中
○異常な状態			
電源ランプ	橙	点滅	受信できていない状態
	赤緑	点滅	電池が消耗している状態

登録制メール

町では、災害情報を早期に周知するため「登録制メール」・「緊急速報メール(エリアメール)」・「町ホームページ」・「町SNS (Facebook、Twitter)」で災害情報を配信しています。町内での火災、気象警報、地震時の震度、ミサイル攻撃やテロ攻撃などの情報を配信していますので、災害に対する備えとしてご利用ください。

登録制メールとは

携帯電話やスマートフォンのメールアドレスを町に登録すると、町からの災害時における避難指示や避難所の開設や災害情報などの磐梯町に関する情報が磐梯町を離れていても登録者に配信されます。

緊急速報メール(エリアメール)とは

緊急地震速報やミサイル攻撃やテロ攻撃などの国民保護情報等が配信されます。配信された際に通話中の場合や原則として町内にいなければ受信できません。

登録制メール新規登録の流れ

登録の方法

1 次の登録用メールアドレスに、件名・本文を入力せずにメールを送信します

bousai.bandai-town@raidan2.ktaiwork.jp

左QRコード対応の携帯電話をご利用の場合、左の図からアドレスを読み取ることができます。

2 返信されたメールに記載されたアドレス(URL)へインターネット接続します

Sub:メールサービス登録のご案内
From:bandai-town@raidan2.ktaiwork.jp

磐梯町お知らせメール
メールサービスの仮登録が完了しました。まだ登録は完了していませんので、以下のURLから一週間以内に本登録を実施してください。
<https://raidan2.ktaiwork.jp/register?XXXXXX>

3 入力内容を確認した上で登録を行ってください

設定内容の確認

次の内容でよろしければ「登録」を、再度編集する場合は「戻る」を選択してください。

メールアドレス XXXXX@XXX.XXX.jp

戻る

登録

4 登録完了メールが届けば完了です

Sub:メールサービス登録完了
From:bandai-town@raidan2.ktaiwork.jp

磐梯町お知らせメールの登録が完了致しました。登録内容の変更・配信解除は次のリンク先にアクセスしてください。
<https://raidan2.ktaiwork.jp/update?XXXXXX>

【登録の前に】

迷惑メール等の設定をされている方は、メールアドレス (bandai-town@raidan2.ktaiwork.jp) が受信可能となるよう携帯電話等の設定の変更をお願いします。

2

避難行動ガイド①

分散避難

避難所（避難場所）に行くことだけが避難ではありません。
避難所の密集を避けるためにも、状況に応じた「分散避難」という取組も重要になってきています。

避難所（避難場所）への避難

- 自宅の水害・土砂災害の危険性が高い。
 - 避難できる親戚・知人宅がない。
- ➔ 市町村が開設した避難所（避難場所）へ。



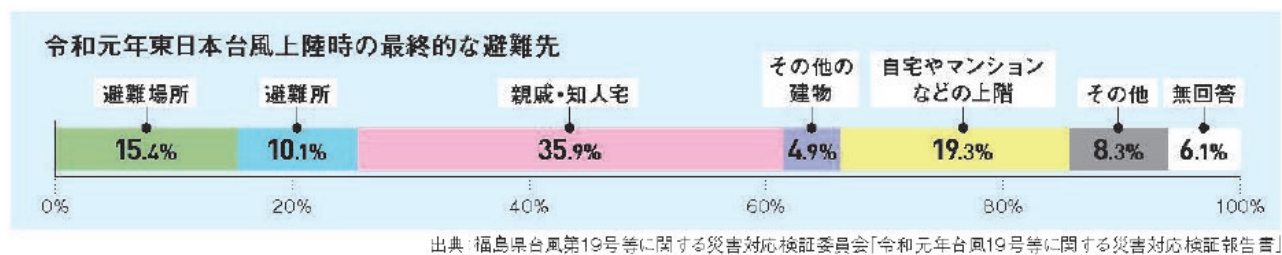
在宅避難

- 「家屋倒壊等氾濫想定区域」に入っていない。
 - 居室が浸水深より高い。
 - 水・食料等の備えが十分で水がひくまで我慢できる。
- ➔ 自宅にとどまる。（自宅内の安全な場所へ移動）



親戚・知人宅やホテル・旅館への避難

- 親戚・知人宅やホテル・旅館が水害・土砂災害の危険性が低い。
 - 避難できる親戚・知人宅がある。
- ➔ 親戚・知人宅やホテル・旅館に身を寄せる。親戚・知人には日頃から相談しておきましょう。



【車で避難する場合】

水害・土砂災害の危険が迫っている場合、車での避難は危険です。
「まだ大丈夫」と移動したのち、急に周辺の水位が上がり、車内から脱出できなくなってしまう可能性があります。

- やむを得ず、車での避難や車中泊を行う場合には、
- 雨がひどくなる前の明るい時間帯に、浸水しない安全な場所に移動しましょう。
 - トイレなどに困る場合がありますので、簡易トイレの準備も必要です。
 - エコノミークラス症候群や熱中症に十分注意し、軽い運動やこまめな水分補給等を行いましょう。



大雨のとき

土砂災害警戒情報が発令され危険が高まった地区に対して、町が設定している基準に達した場合に高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保を発令します。また、高齢者等避難が発令されずに避難指示が発令される場合もあります。

※特に土砂災害警戒区域にお住まいの方は、早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。



浸水のとき

大雨のとき同様に、設定している基準に達した場合は、避難指示等が発令されます。

※特に浸水想定区域にお住まいの方は、早め早めの判断をし、「危ない」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる自主避難をすることが命を守ることになります。

地震のとき

大きな地震やそれに伴う余震により家屋が倒壊し、又は倒壊するおそれがあるときに避難指示を発令します。

※直ちに避難所を開設するよう努めますが、災害の規模により時間がかかる場合があります。



火災のとき

大規模な延焼拡大のおそれがあるときに、避難指示を発令します。

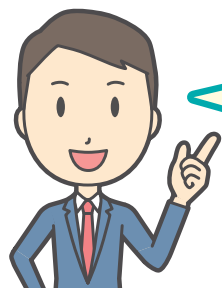


その他

その他災害が発生するおそれがあるときに、避難指示を発令します。

避難行動ガイド②

住民の皆さまが、「自らの命は自らが守る」という意識のもと、自主的な避難を行うために、気象庁及び県では防災気象情報を提供し町では避難情報を5段階の警戒レベルにより発令します。
日頃から、いざという時に備えて、災害時の取るべき行動の確認をお願いします。



それぞれの**警戒レベル**に相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。
町からの**避難指示等の発令に留意**するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。
警戒レベル5の状況では、災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要**です。

各種災害について、町が発令する避難情報を5段階に整理しました。

警戒 レベル	状 況	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※1
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない。
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである。

Q&A

- 質問1) 防災気象情報は出てるけど、避難情報が出ていないときはどうすればいいの？
⇒町は、様々な情報をもとに、避難情報を発令する判断を行うことから、必ずしも防災気象情報と同じレベルの避難情報が、同時に発令されるわけではありません。**自らの命は自ら守る意識を持って、防災気象情報も参考にしながら、適切な避難行動をとってください。**
- 質問2) 洪水で「警戒レベル4相当情報」が既に出ているなかで、土砂災害で「警戒レベル3相当情報」が出たけど洪水のレベルも4から3に下がったということなの？
⇒洪水の危険性が4から3に下がったわけではありません。洪水は4のままで、土砂災害の3が追加されたものであり、**その地域は洪水と土砂災害、両方の災害を警戒する必要があります。**

【警戒レベル5】では既に災害が発生しています。
【警戒レベル3】や**【警戒レベル4】**で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

特別警報 をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。
普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基 準
大 雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴 風	暴風が吹くと予想される場合
高 潮	数十年に一度の強度の台風や 同程度の温帯低気圧により
波 浪	高潮になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の”数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基 準
地 震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
津 波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

(*) 噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「(噴火警戒レベル4または5)を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」「(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

特別警報が 発表されたら

- ・尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・
気象庁ホームページ



防災放送・広報車

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、
気象庁HPに詳細が
掲載されていますので、
ご確認ください。

気象庁

〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917 (耳の不自由な方向け)

気象庁ホームページ

<https://www.jma.go.jp>

特別警報について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

風水害情報について

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨注意報・ 警報の 発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こる
おそれがあると予測される場合

- ・表面雨量指数(注1)6
- ・土壌雨量指数(注2)67

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こる
おそれがあると予測される場合

(浸水害)表面雨量指数13 (土砂災害)土壌雨量指数106

記録的短時間大雨情報 1時間に雨量100mm

雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量 (mm)	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
やや強い雨	10以上 20未満	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に 水たまりができる。	—
強い雨	20以上 30未満	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。			ワイパーを速くしても見づらい。
激しい雨	30以上 50未満	バケツをひっくり 返したように降る。		寝ている人の半数くらいが 雨に気がつく。	道路が 川のようになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)
非常に 激しい雨	50以上 80未満	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきで あたり一面が 白っぽくなり、 視界が悪くなる。	車の運転は危険。
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫 感がある。恐怖を感じる。				

風の強さと吹き方

予報用語	平均風速 (m/s)	およその時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや 強い風	10以上 15未満	~50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速 運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	~70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。高所での 作業はさわめて危険。	電線が鳴り始める。看板 やトンネル板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感 覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるもの がある。雨戸やシャッターが揺れる。	30
非常に 強い風	20以上 25未満	~90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていなくて 立ってられない。飛来物 によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない 木が倒れ始める。看板 が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するもの がある。固定されていないプレ ハブ小屋が移動、転倒する。ビ ニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	40
	25以上 30未満	~110km					固定の不十分な金属屋根の葺材 がめくれる。養生の不十分な仮 設足場が崩落する。	50
猛烈な 風	30以上 35未満	~125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるもの がある。ブロック壁 で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	60
	35以上 40未満	~140km					住家で倒壊するものがある。鉄骨 構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km~						

台風の大きさと強さ

大きさ	風速 15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s(64ノット)以上44m/s(85ノット)未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44 m/s(85ノット)以上54m/s(105ノット)未満
		猛烈な	54m/s(105ノット)以上

台風時によく耳にする言葉が「hPa(ヘクトパスカル)」ですが、hPaは台風の中心気圧を見るもので、数値が低い方が勢力が大きくなります。
参考:令和元年東日本台風は915hPaでした。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して多量の雨が降ることで、「ゲリラ豪雨」とも言われています。
発生の予測は困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、
気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



注1 表面雨量指数: 短時間の強い雨による浸水害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が地中に浸み込まずに、地表面にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

注2 土壌雨量指数: 大雨による土砂災害の危険度の高まりを把握するための指数。降った雨が土壌中にどれだけ溜まっているかを指数化したもの。

土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



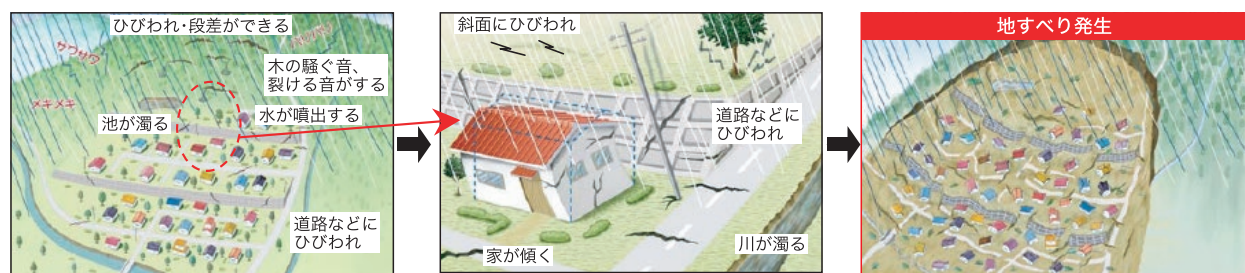
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が多いため、甚大な被害を及ぼします。また、一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難指示等の判断を支援するよう、また、住民の自主避難の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、特に早めの避難が重要です。磐梯町からの避難に関する情報に留意するとともに、土砂災害警戒情報を自主避難の参考にしてください。土砂災害警戒情報が発表されたときは、対象市町村内で土砂災害発生の危険度が高まっている領域を土砂災害警戒判定メッシュ情報(気象庁HP)でご確認ください。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、危険を感じたらためらうことなく自主避難をお願いします。

なお、詳細図に掲載している土砂災害警戒区域等の指定箇所は令和4年7月現在のものです。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

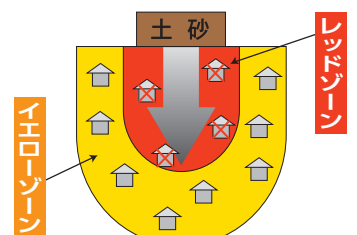
土砂災害防止法に基づき、福島県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しが行われています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に危険が生じるおそれがある区域



地震対策について 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

2~5分

とにかく自分の身を守ろう!

●地震だ!まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

しっかり火の始末で、火災防止!

●大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。

わが家の安全の確認、確保!

●火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

隣近所の安否確認、助け合い!

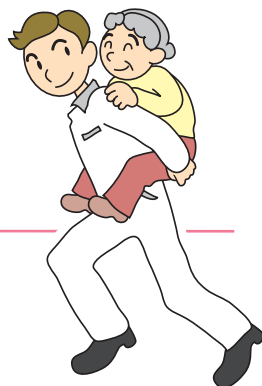
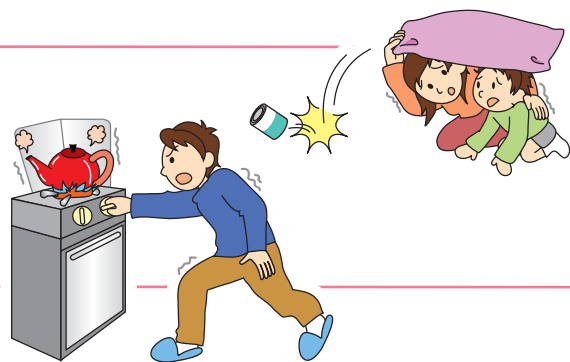
●外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

2、3日は自分でしのぐ!

●避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。



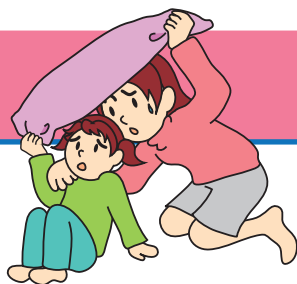
屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

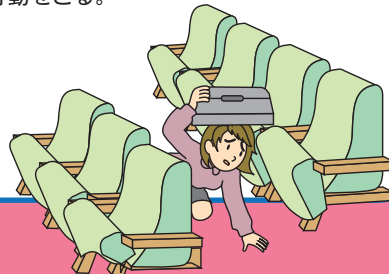


集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

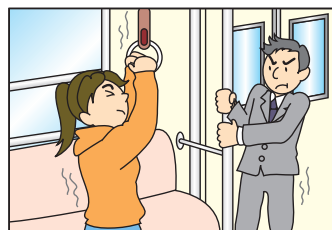
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



火災対策について 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければフライパンなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな出火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

あわてて走り回ると危険。水が近くにあれば、直接かけて消火を。水がない場合は手で顔をおおいながら転げ回って消火を。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

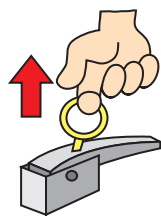
早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけた上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

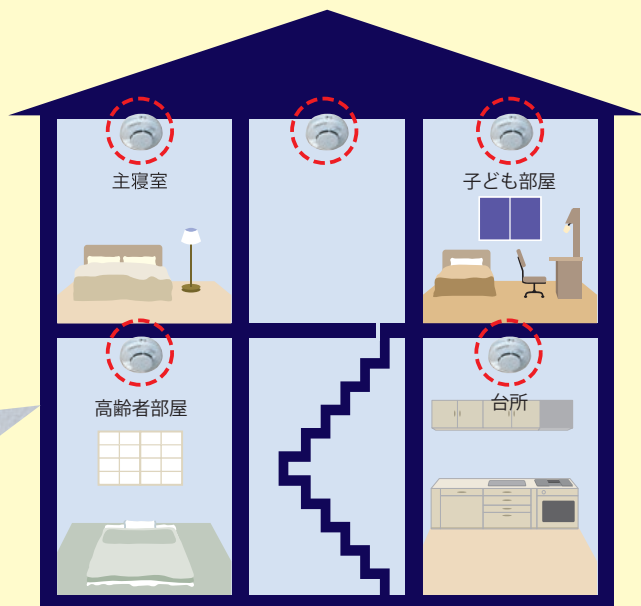
火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所については、設置をおすすめします。

注意: 住宅用火災警報器は電池式のものが主流です。電池の寿命は5年から10年とされていますので、早めの交換をお願いします。警報器の音を事前に確認することも重要です。



火災警報器



住宅内取付位置図

防災対策・非常時持出品

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



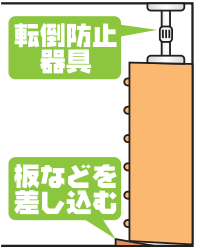
2 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



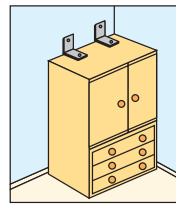
3 家具の転倒等を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



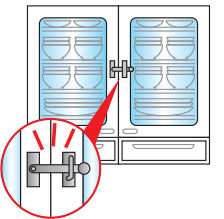
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



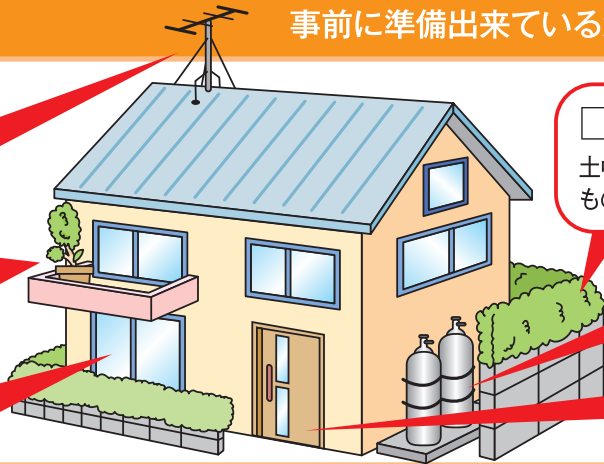
家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

☐ **屋根** 不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

☐ **ベランダ** 植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

☐ **窓ガラス** 飛散防止フィルムをはる。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

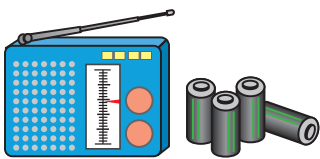
☐ **プロパンガス** ボンベを鎖で固定しておく。

☐ **非常口の確保**

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



☐ ラジオ ☐ 電池(多めに用意)

貴重品



☐ 現金 ☐ 印鑑 ☐ 健康保険証 ☐ 預貯金通帳 ☐ 免許証 ☐ 権利証書 ☐ マイナンバーカード

救急医療品



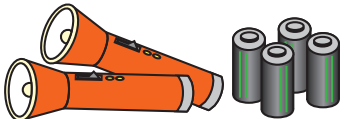
☐ 常備薬 ☐ 傷薬 ☐ 風邪薬 ☐ 鎮痛剤 ☐ 包帯 ☐ 絆創膏 ☐ 胃腸薬

非常食品等



☐ 非常用食品 ☐ ミネラルウォーター ☐ 離乳食 ☐ 粉ミルク

懐中電灯



☐ 懐中電灯(出来れば一人にひとつ) ☐ 電池(多めに用意)

その他

☐ 衣類(下着・上着など) ☐ 生理用品 ☐ 缶切り ☐ 紙皿 ☐ 水筒 ☐ マスク ☐ ウェットティッシュ ☐ ヘルメット ☐ 防災マップ(本書) ☐ タオル ☐ 紙おむつ ☐ 栓抜き ☐ 体温計 ☐ 紙コップ ☐ カップ ☐ ライター ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う) ☐ 消毒液

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(2~3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利) ☐ 缶詰・レトルト食品 ☐ 梅干し・調味料など ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



☐ 卓上コンロ ☐ ガスボンベ ☐ 固形燃料

その他



☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水) ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど ☐ 調理器具(なべ・やかんなど) ☐ バケツ・各種アウトドア用品など

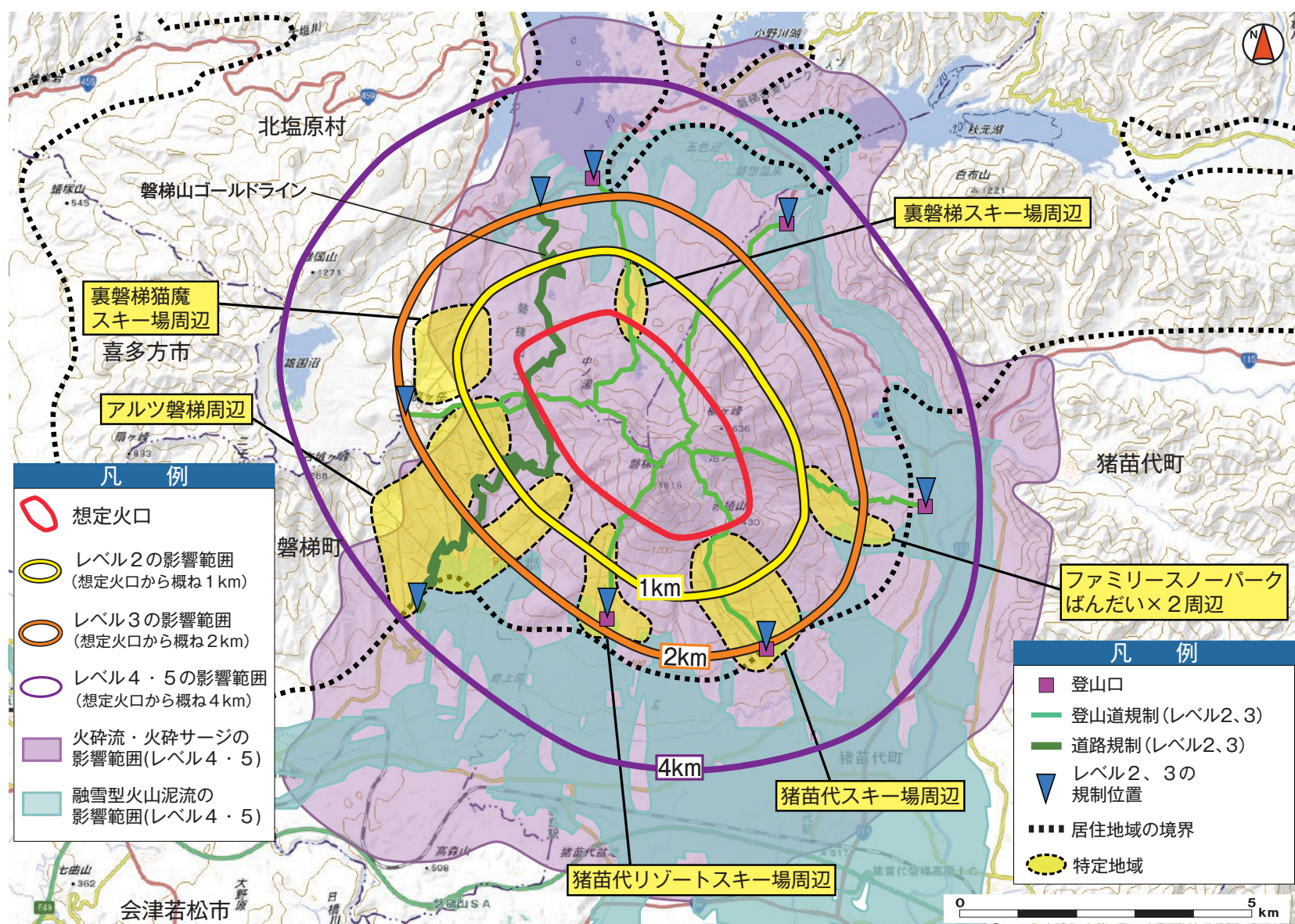
磐梯山の噴火警戒レベル ー火山災害から身を守るためにー

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 磐梯山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。



磐梯山を北側上空から撮影

■磐梯山 噴火警戒レベルと規制範囲



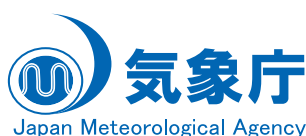
この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

※図中の特定地域とは、居住地域よりも磐梯山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指します。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがあります。

※火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流の影響範囲は、「磐梯山火山噴火緊急減災対策砂防計画」(平成28年3月)に基づき作成しています。

※火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流の影響範囲は、火砕流・火砕サージが想定火口範囲の12地点から流れ、融雪型火山泥流が発生した場合の想定範囲を全て重ねたものです。1回の噴火で全ての範囲に影響するわけではありません。

■磐梯山の噴火警戒レベルは、磐梯山火山防災協議会において協議、作成されました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については、猪苗代町、北塩原村、磐梯町、会津若松市、喜多方市、湯川村、会津坂下町にお問い合わせください。



出典：気象庁ホームページ
(磐梯山の噴火警戒レベル https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/PDF/level_214.pdf)

仙台管区气象台 地域火山監視・警報センター
TEL：022-297-8164 <https://www.jma-net.go.jp/sendai/>
福島地方气象台
TEL：024-534-2162 <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/>
磐梯山火山防災協議会事務局：福島県
TEL：024-521-7194 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/>

磐梯山の噴火警戒レベル



平成21年3月31日運用開始
令和元年9月25日改定

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●火口から概ね4 km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火が発生、あるいは切迫している。 ●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 1888年7月15日の噴火
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者及び特定地域の避難、住民の避難の準備等が必要。	●火口から概ね4 km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火の可能性。 ●火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
警報	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。登山禁止・入山規制など危険な地域への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難、高齢者等の要配慮者の避難の準備等が必要。	●火口から概ね2 km以内に大きな噴石が飛散、火砕流・火砕サージが流下するような噴火の発生、またはその可能性。 ●火口から居住地域近くまで、融雪型火山泥流が到達、またはその可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
		火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難等が必要。	●火口から概ね1 km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生、またはその可能性。 過去事例 2000年8月15日：日別地震回数476回、有感地震発生、GNSSによる地殻変動に若干の変化、入山規制、磐梯山ゴールドライン規制
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制、特定地域の避難準備等が必要。	●火山活動は静穏。 ●状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。

※特定地域とは、居住地域よりも磐梯山の想定火口に近い所に位置する集客施設が含まれる地域を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがある。

※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町村の地域防災計画等で定められています。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

指定緊急避難場所・指定避難所・福祉避難所とは？



指定緊急避難場所

災害が発生し、又は発生するおそれがある場合にその危険から逃れるための避難場所として、災害の種類ごとに安全性等の一定の基準を満たす施設又は場所を町が指定します（災害対策基本法第 49 条の 4）

指定避難所

災害の危険性があり、避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設として町が指定します。（災害対策基本法第 49 条の 7）

福祉避難所

災害時において、指定避難所での生活が困難な介護や特別な配慮を必要とする高齢者や障がいのある方などの要配慮者を受け入れるため、特別に開設される避難所です。

ライフライン・医療機関・行政関係機関連絡先

ライフライン関連機関

名 称	電話番号	備 考
東北電力ネットワーク (株)	0120 - 175 - 366	停電などの緊急時
NTT 東日本ー東北 福島支店	113 (固定電話から) 0120 - 444 - 113 (携帯から)	故障・通信障害の発生等
磐梯町建設課	0242 - 74 - 1228	水道設備の故障など

医療機関・保健機関

名 称	電話番号	備 考
磐梯町医療センター	0242 - 73 - 2110	
磐梯町保健福祉センター	0242 - 73 - 3101	

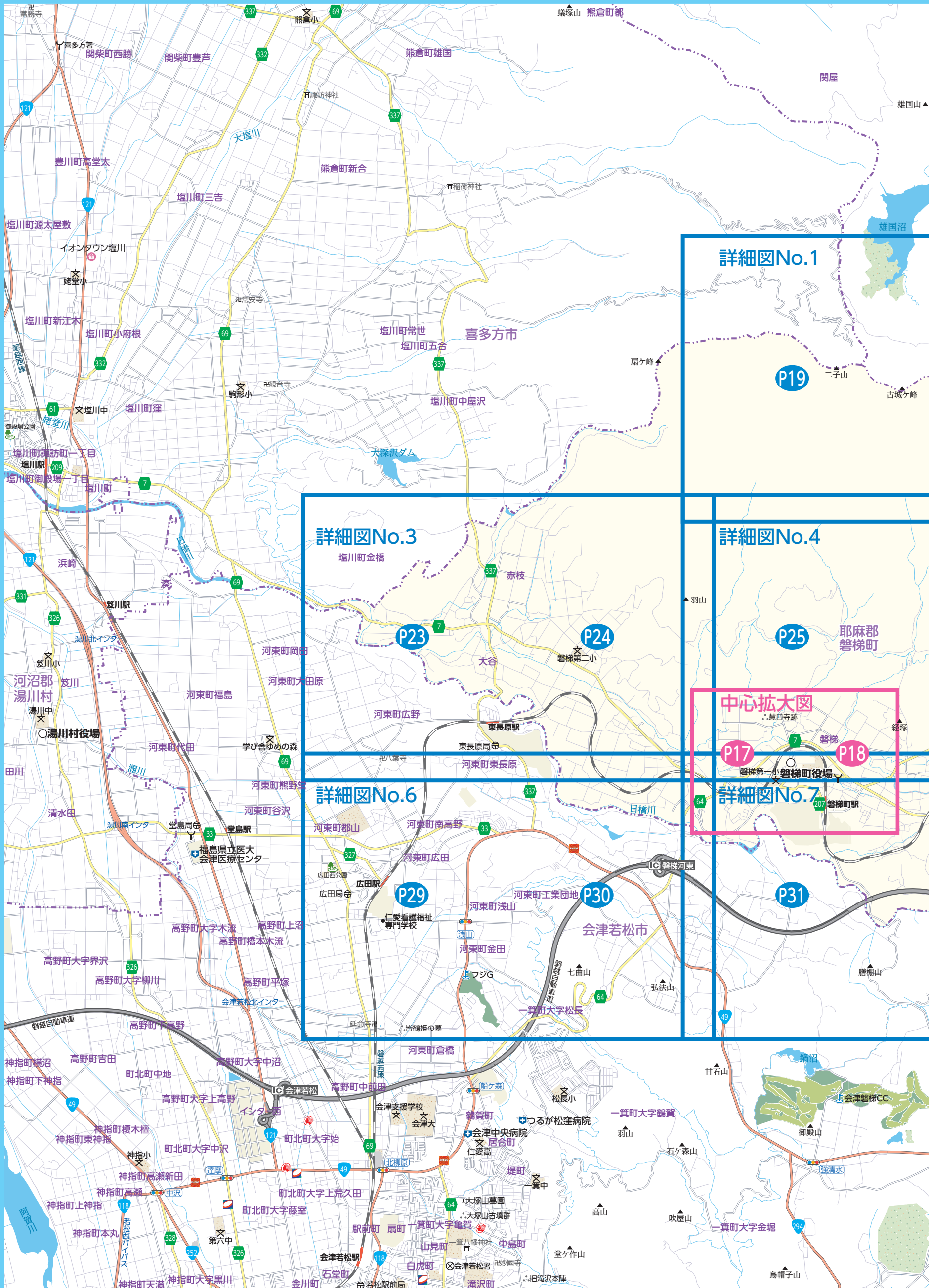
行政関係機関

名 称	電話番号	備 考
磐梯町役場 (代表)	0242 - 74 - 1211	代表
猪苗代消防署	0242 - 62 - 4433	火災・救急・緊急 (急報 119 番)
猪苗代消防署磐梯出張所	0242 - 73 - 3100	火災・救急・緊急 (急報 119 番)
猪苗代警察署	0242 - 63 - 0110	事故・交通 (急報 110 番)
猪苗代警察署磐梯駐在所	0242 - 73 - 2132	事故・交通 (急報 110 番)

指定緊急避難場所・指定避難所・福祉避難所・AED設置一覧

令和4年12月現在

No.	名 称	所在地	掲載頁	指定緊急 避難場所 (屋外)	指定 避難所 (屋内)	福 祉 避難所	AED	適合する災害種別			
								洪水	土砂災害	地震	火山
①	磐梯町民運動場	磐梯字仁渡1023	P18	●				○	○	○	—
	磐梯町民体育館				●			○	○	○	—
②	磐梯町中央公民館	磐梯字仁渡1018	P18	●			●	○	○	○	—
③	磐梯第一小学校校庭	水口2528	P17		●			○	○	○	—
	磐梯第一小学校体育館			●			●	○	○	○	—
④	磐梯第二小学校校庭	大谷字屋敷前33	P24	●				○	○	○	○
	磐梯第二小学校体育館				●		●	○	○	○	○
⑤	磐梯町多目的広場	仁渡926	P18	●	●			○	○	○	—
⑥	妙法原農村広場	東妙法59	P18	●	●			○	○	—	—
⑦	更科農村公園	更科字堰下4638-101	P26	●				○	—	○	—
⑧	布藤農村公園	更科字桶下2121-2	P32	●				○	○	○	—
⑨	大寺農村公園	磐梯字口明石522-1	P18	●				○	○	○	—
⑩	磐梯中学校	磐梯字仁渡914	P18		●		●	○	○	○	—
⑪	磐梯幼稚園	磐梯字小原1872	P17		●		●	○	○	○	—
⑫	磐梯保育所	磐梯字漆方1060-1	P18		●		●	○	○	○	—
⑬	磐梯町交流館	磐梯字山道311-62	P18		●		●	○	○	○	—
⑭	磐梯町ふれあいセンター	磐梯字町在家8	P18		●		●	○	○	○	—
⑮	磐梯町老人福祉センター	磐梯字漆方1054	P18		●	●	●	○	○	○	—



詳細図No.1

P19

詳細図No.3

P23

P24

詳細図No.4

P25

中心拡大図

P17

P18

詳細図No.6

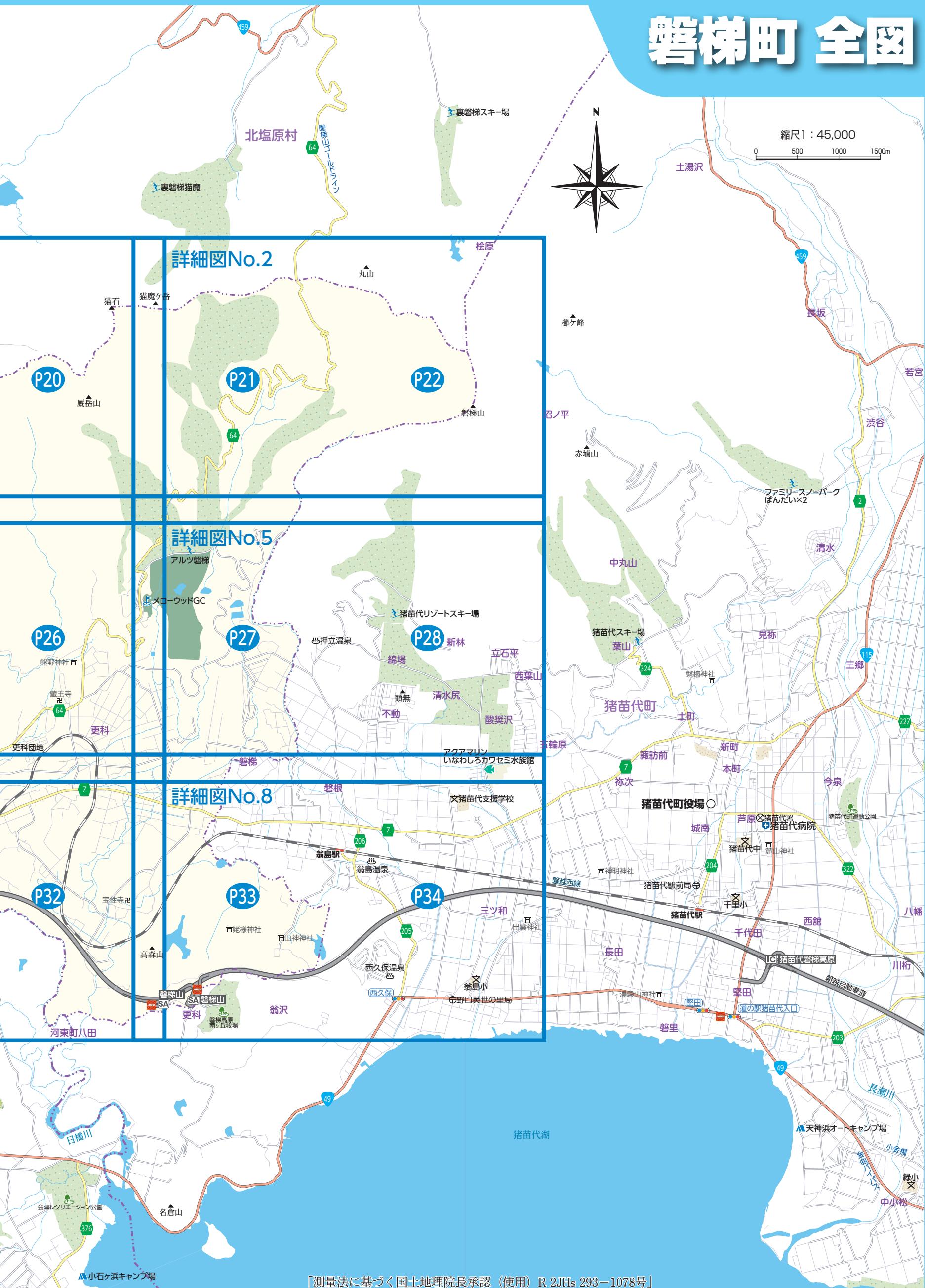
P29

P30

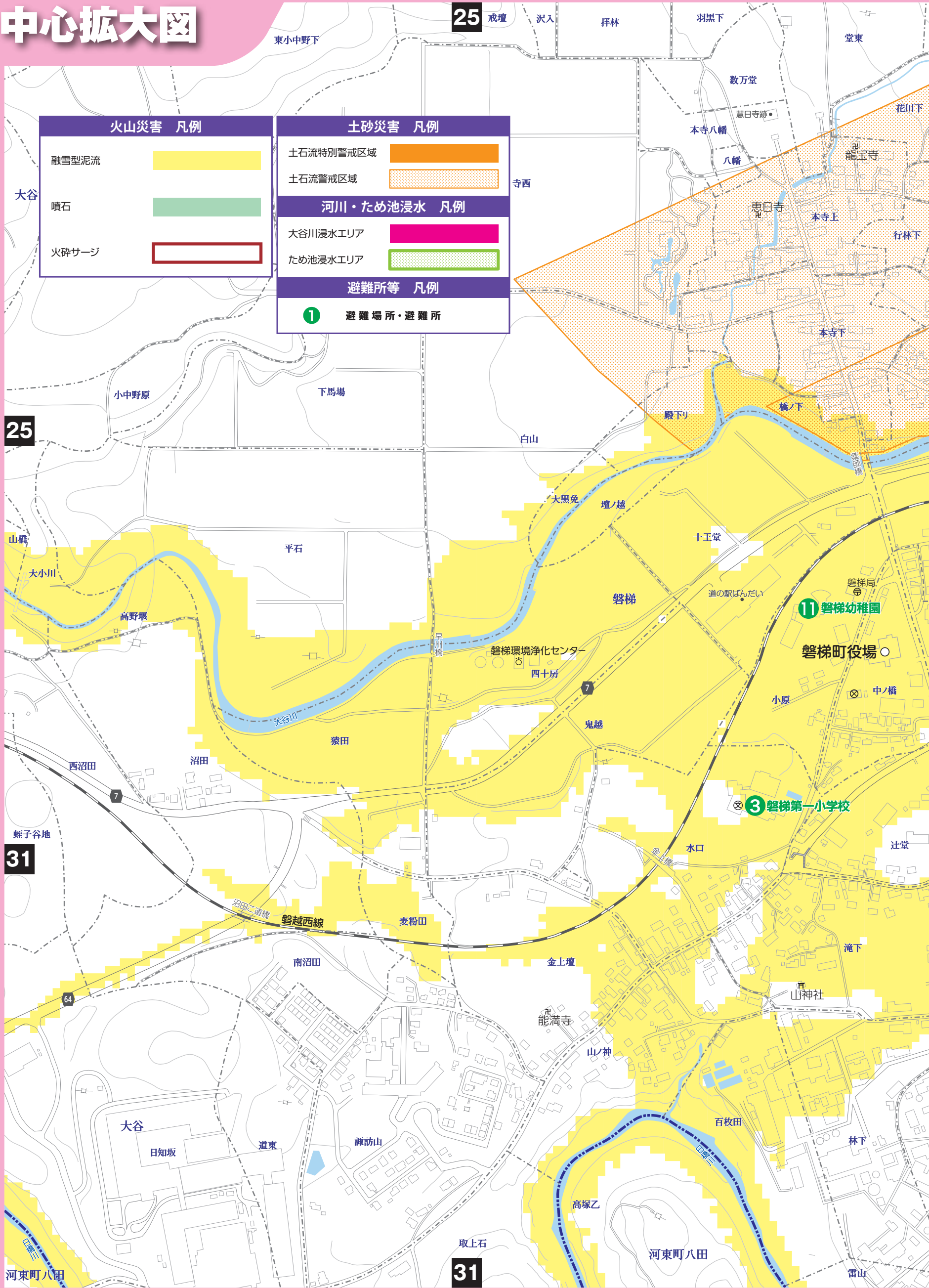
詳細図No.7

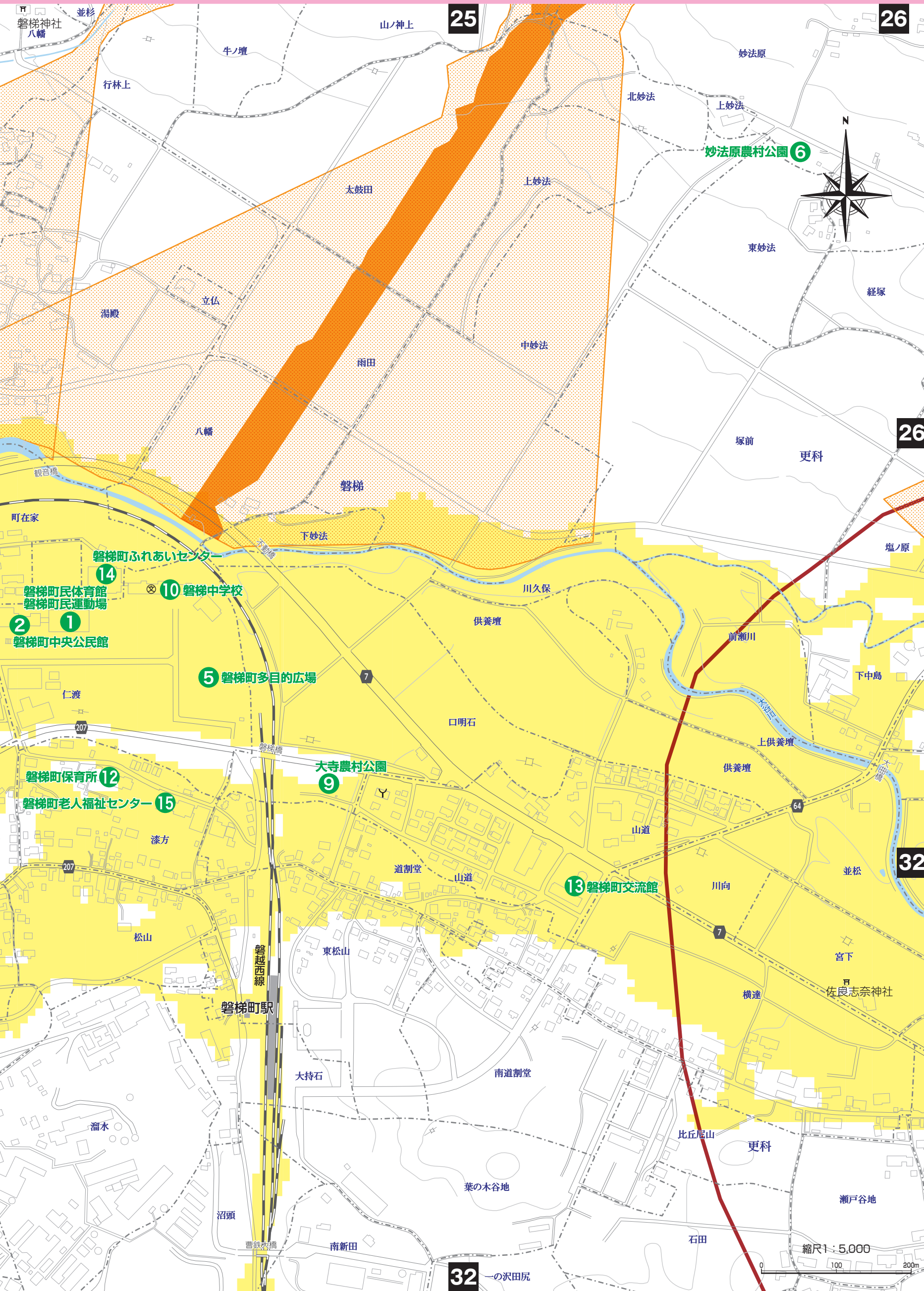
P31

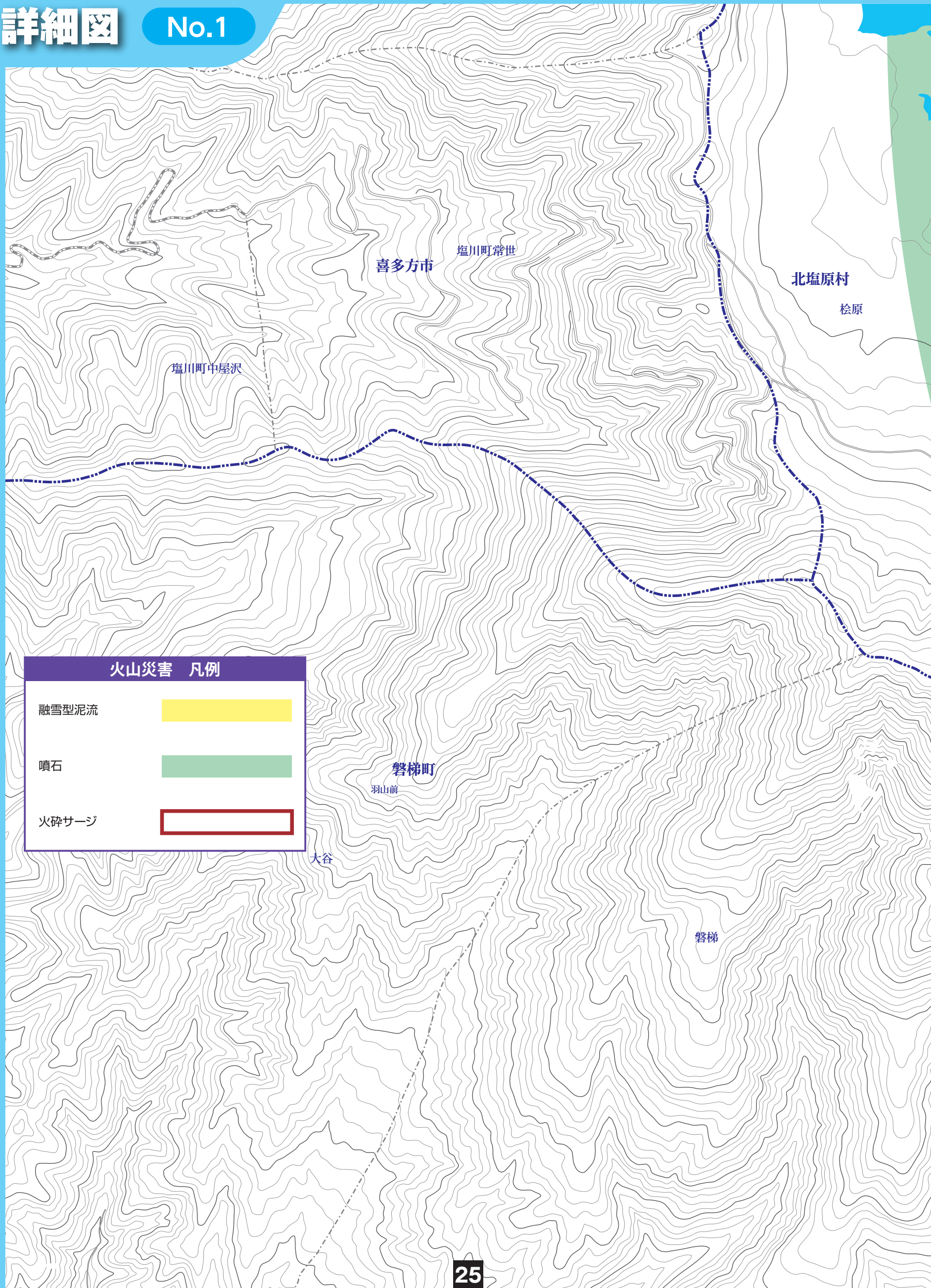
磐梯町 全図

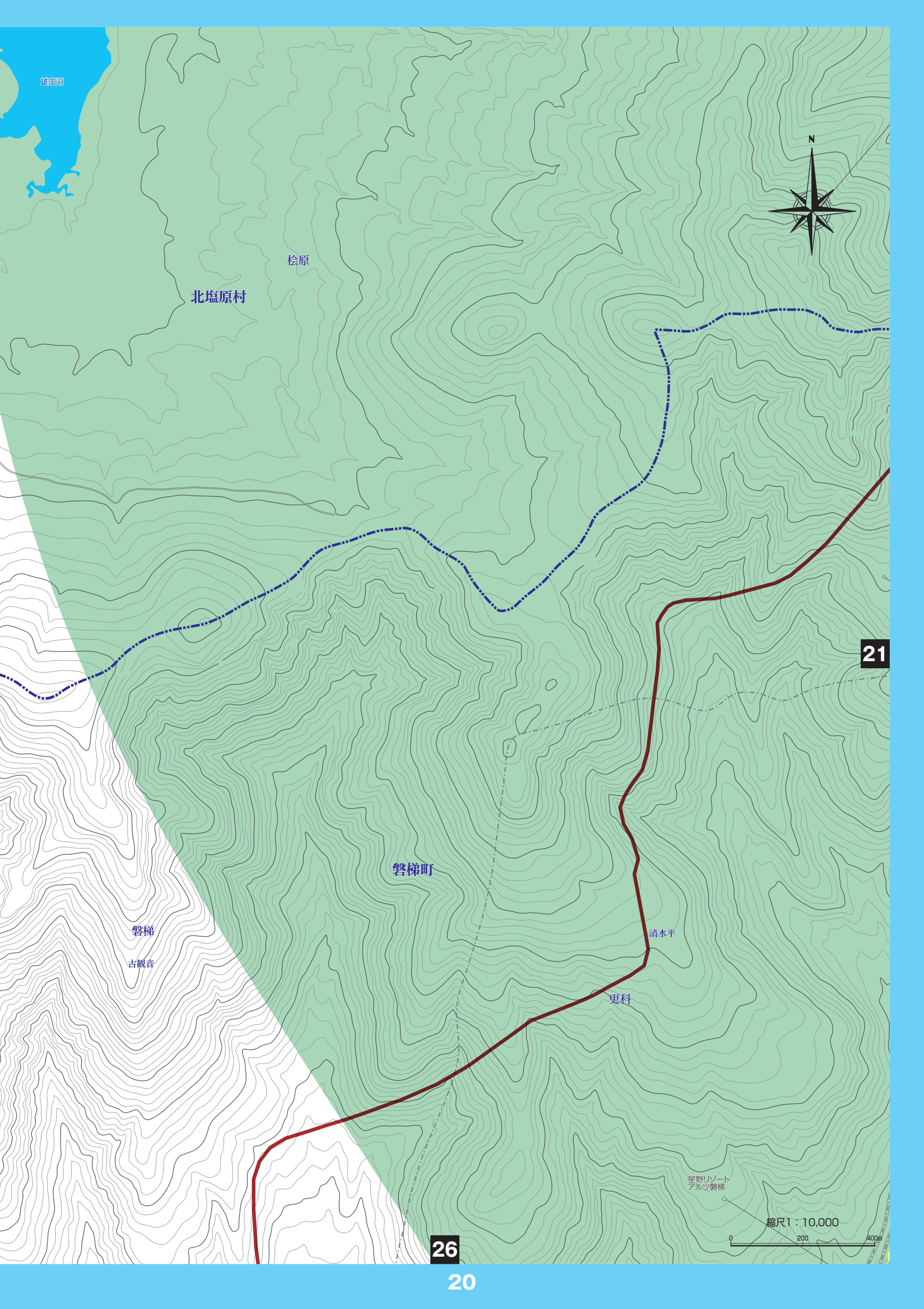


中心拡大図









雄国沼

松原

北塩原村

磐梯町

磐梯

古観音

清水平

更科

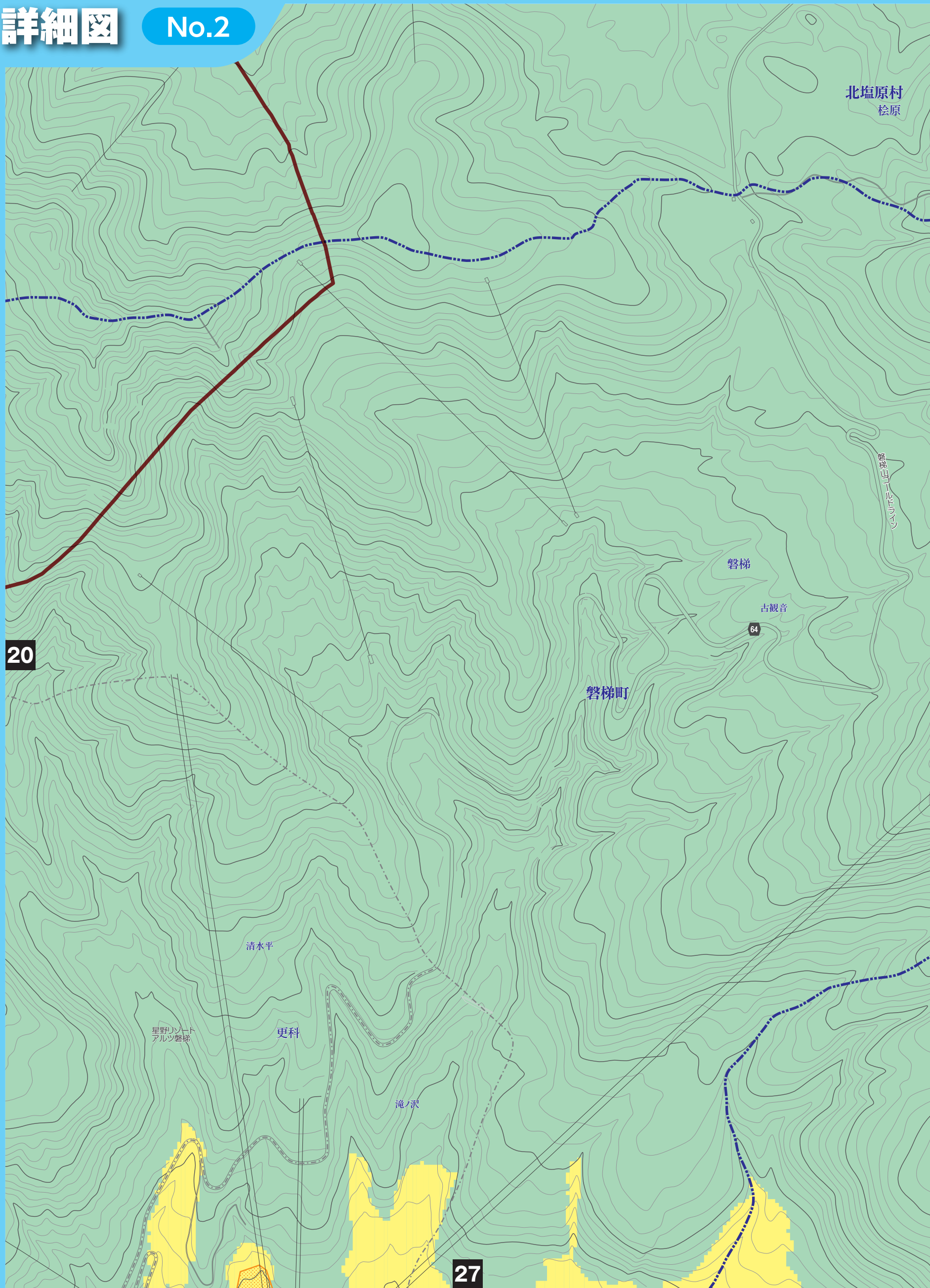
星野リゾート
アルツ磐梯

縮尺1：10,000

0 200 400m

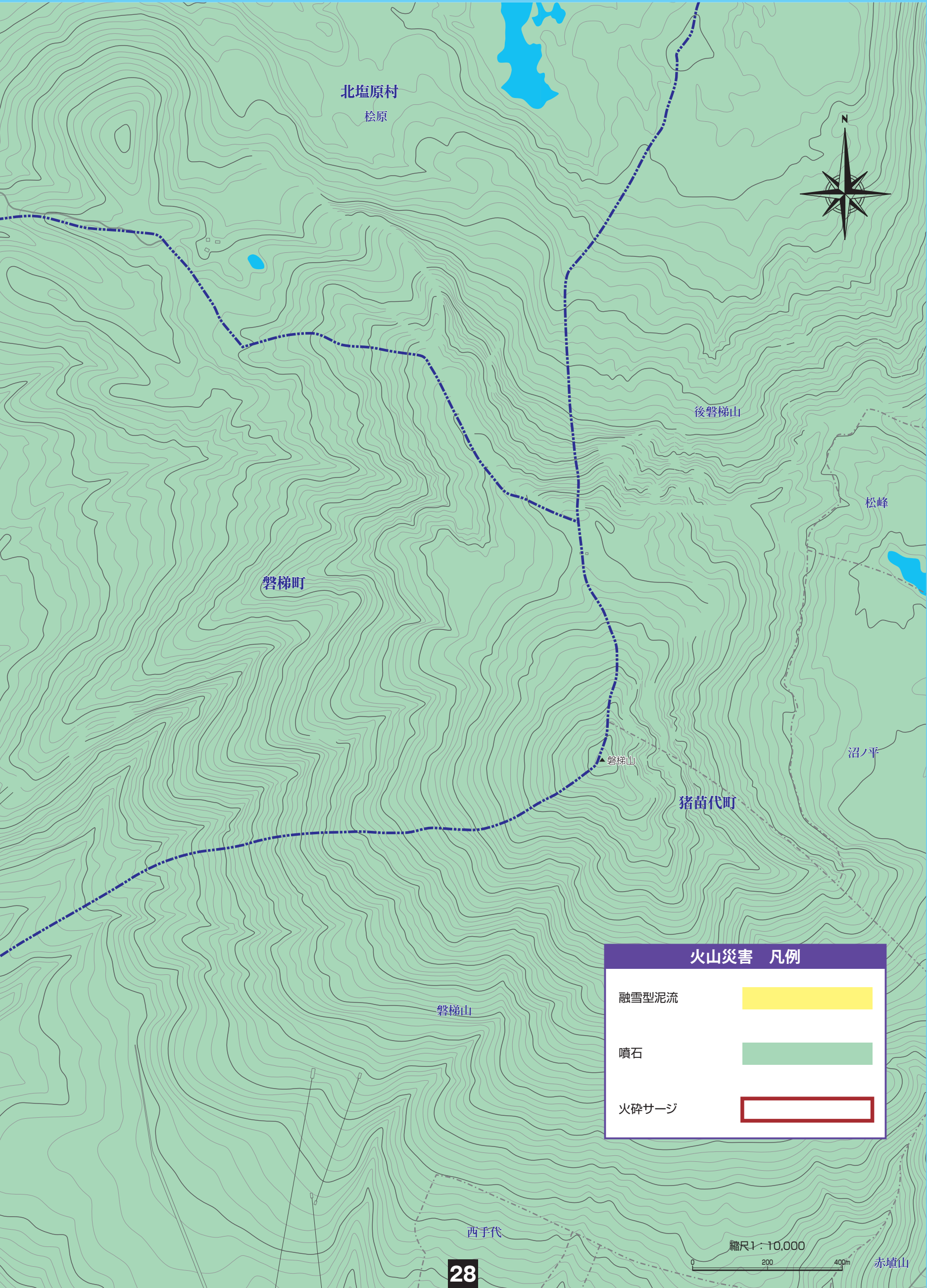
26

21

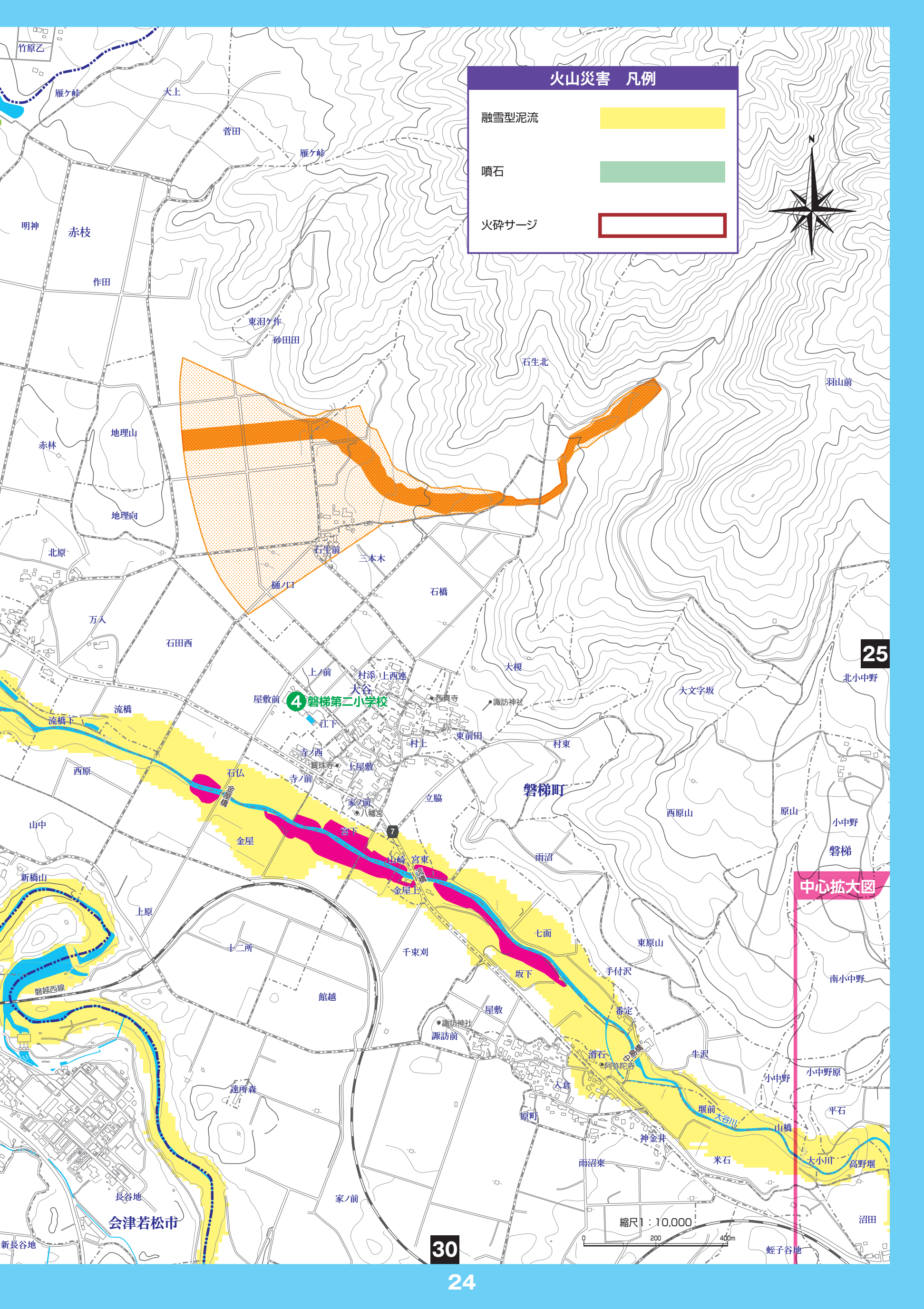


20

27







火山災害 凡例

融雪型泥流

噴石

火砕サージ

25

中心拡大図

30

24

縮尺 1 : 10,000



土砂災害 凡例

土石流特別警戒区域 

土石流警戒区域 

河川・ため池浸水 凡例

大谷川浸水エリア 

ため池浸水エリア 

避難所等 凡例

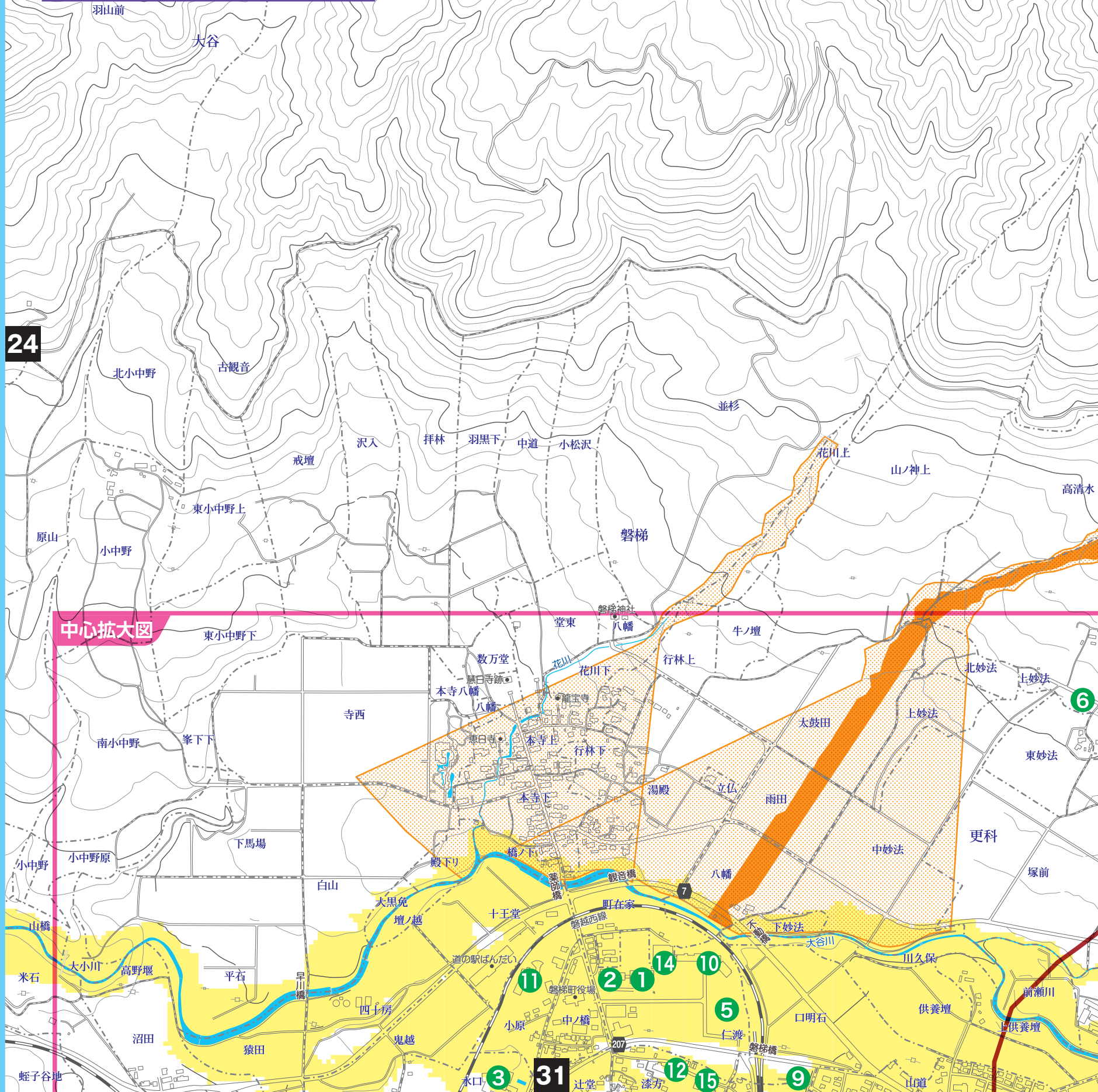
① 避難場所・避難所

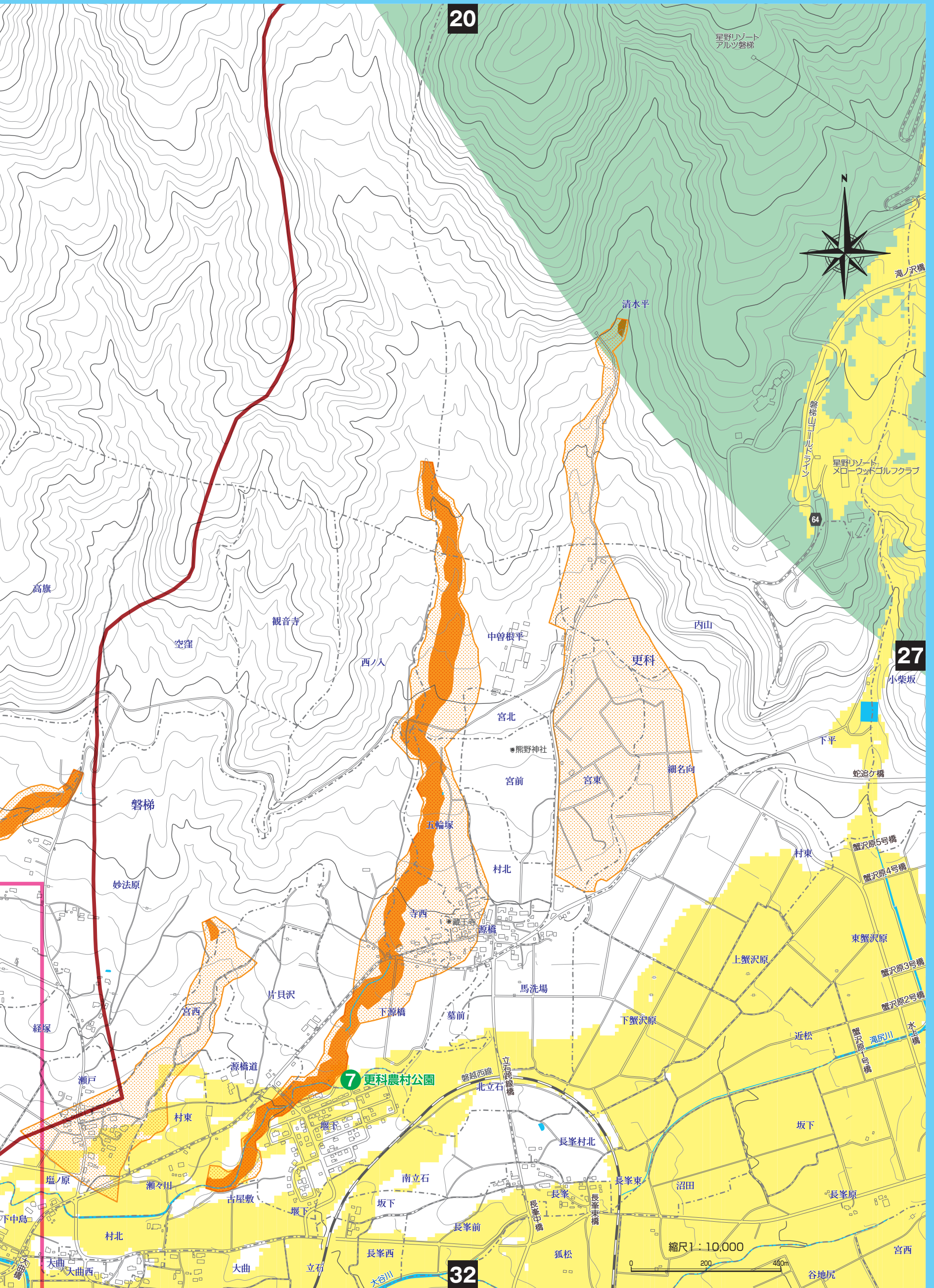
火山災害 凡例

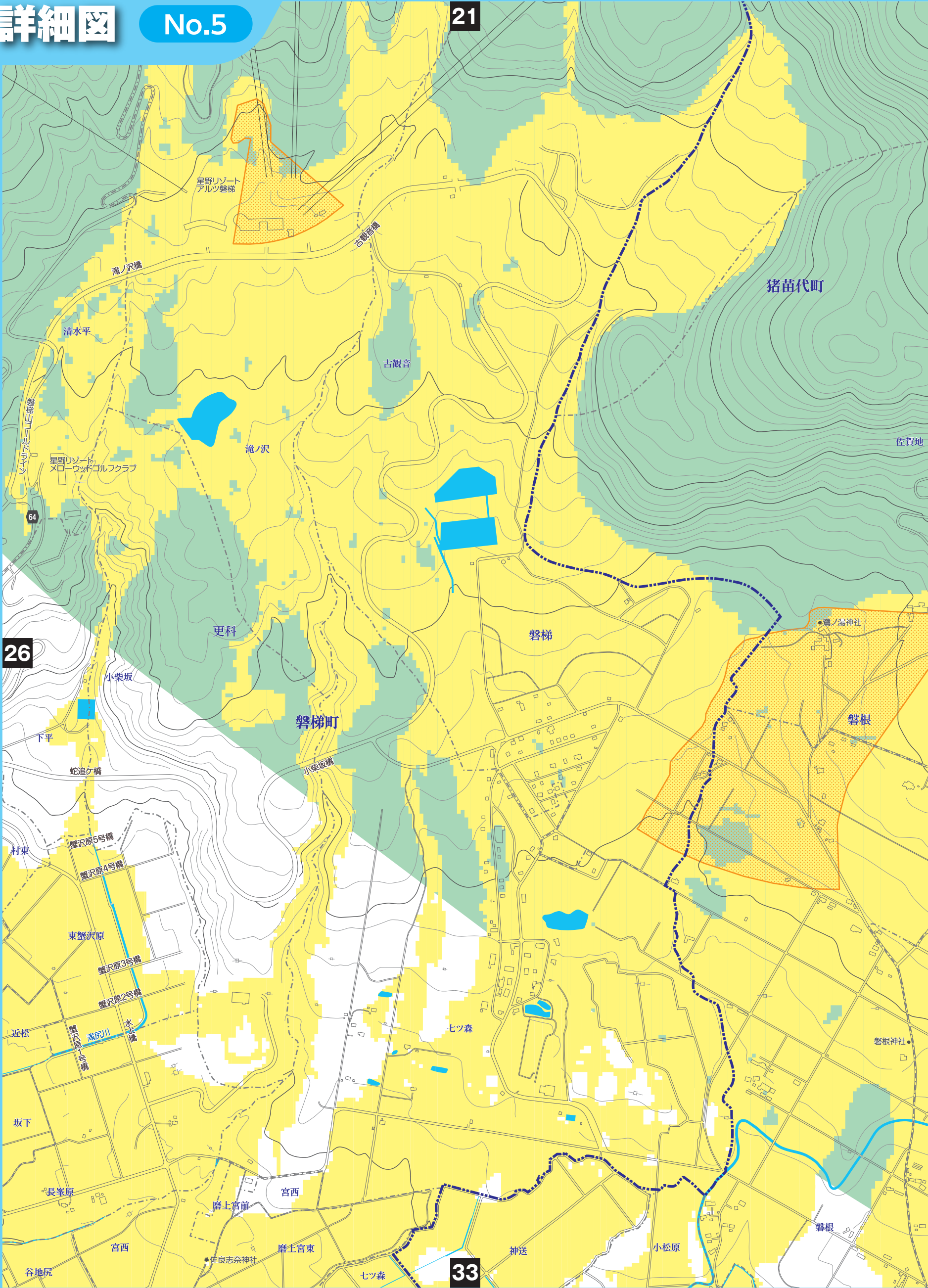
融雪型泥流 

噴石 

火砕サージ 







火山災害 凡例

融雪型泥流



噴石



火砕サージ



土砂災害 凡例

土石流特別警戒区域



土石流警戒区域



河川・ため池浸水 凡例

大谷川浸水エリア



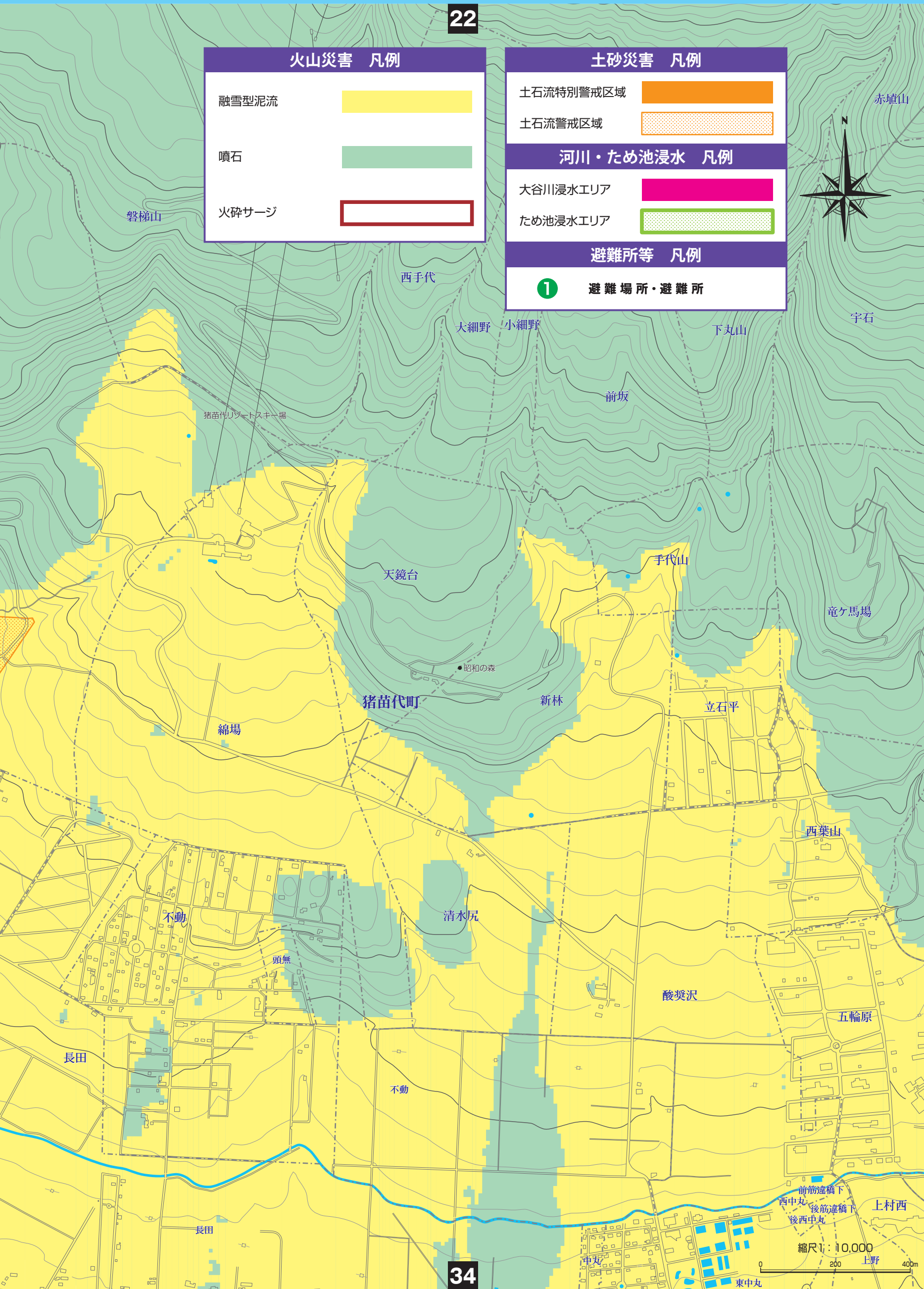
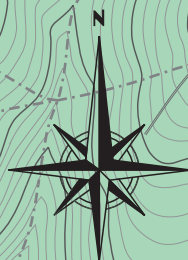
ため池浸水エリア



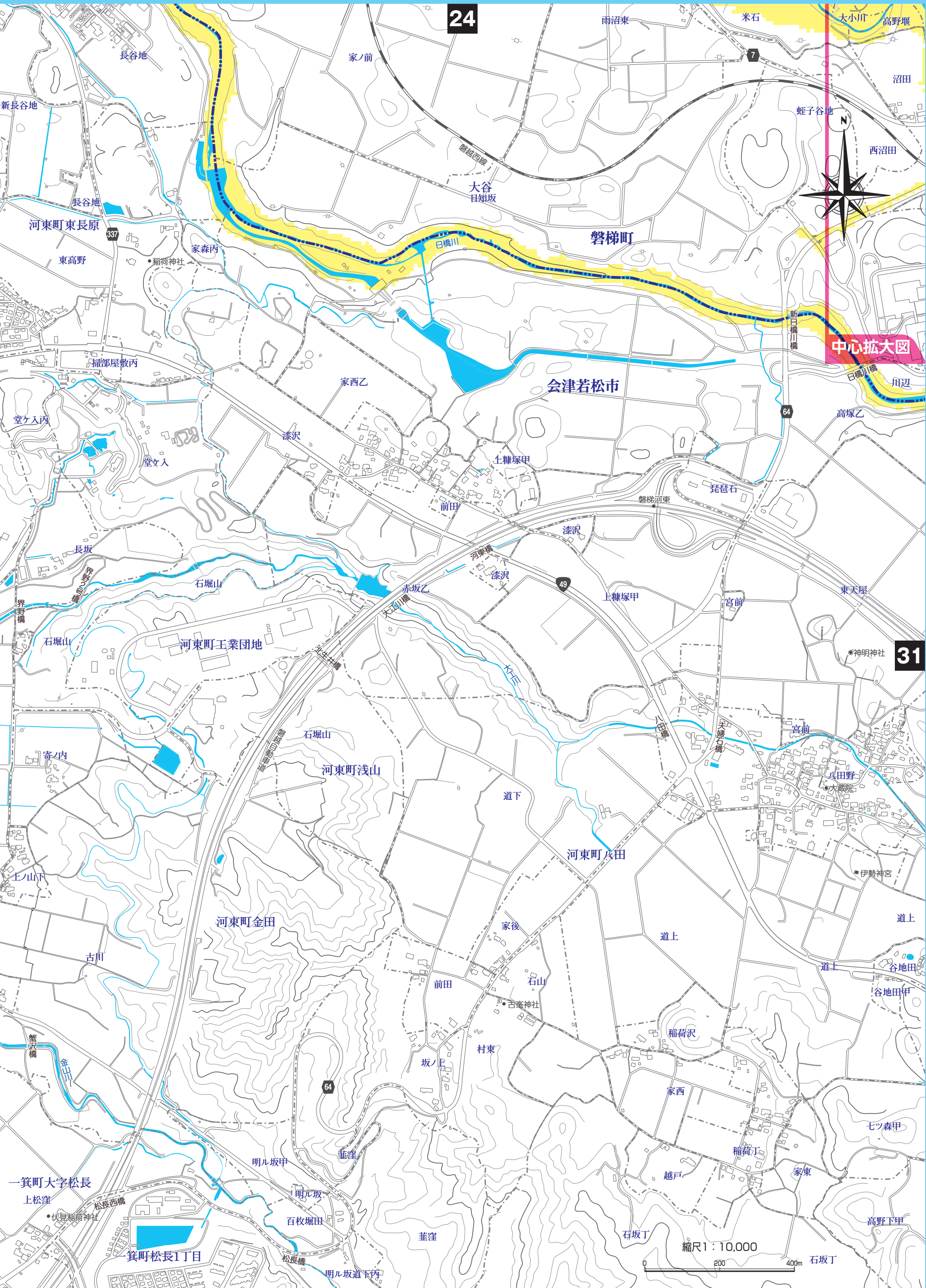
避難所等 凡例

①

避難場所・避難所

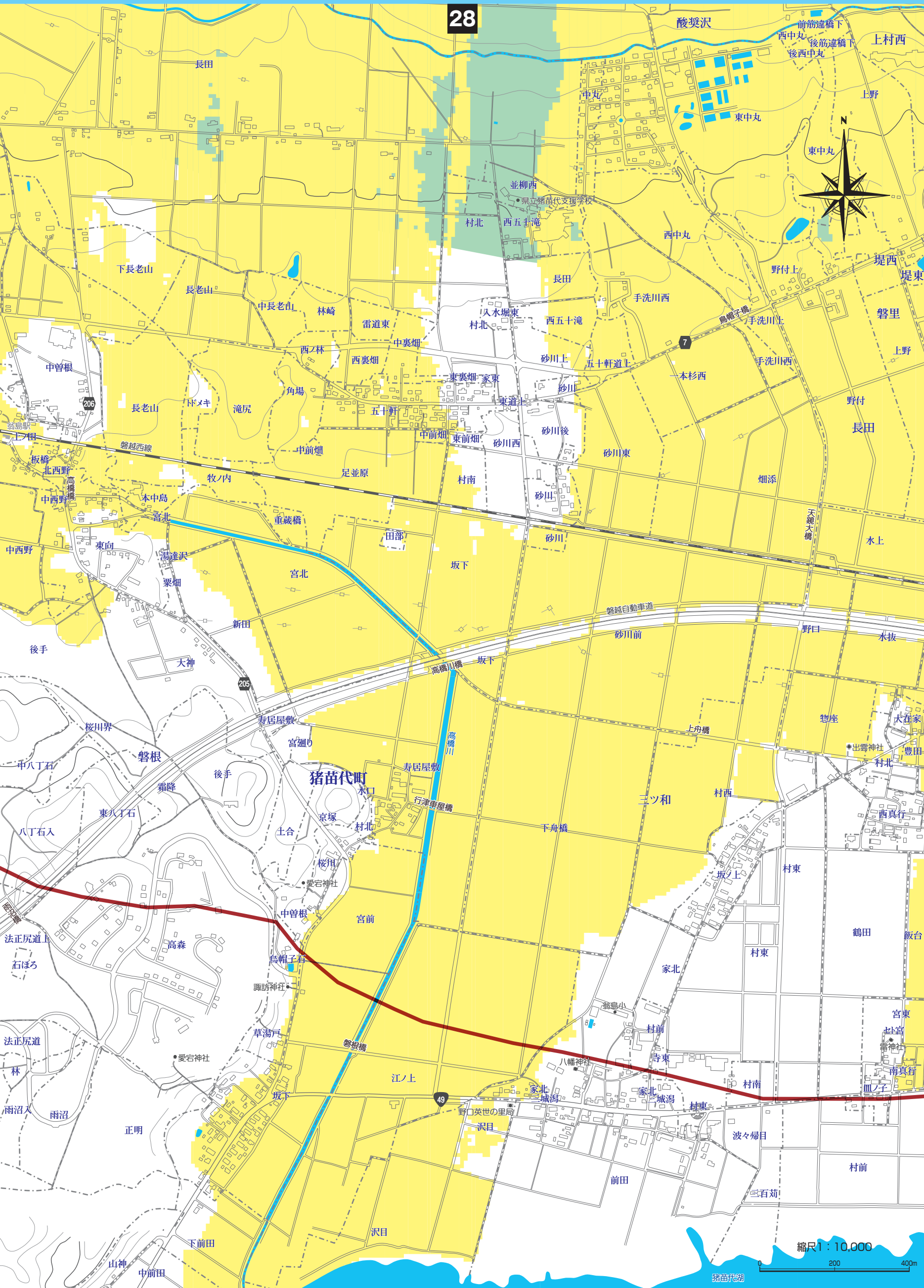












災害に適した冷静な行動があなたの命を救います

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

令和3年3月より、大雨・洪水警報の危険度分布情報サイトが発信されました。『危機（キキ）』が『来る（クル）』のを一目で確認できる、愛称『キキクル』が活躍しています。
その他、国や県では河川情報を提供しています。日頃からアクセスし扱いに慣れるようにしてください。

キキクル

- ・パソコン、スマートフォンから

<https://www.jma.go.jp/bosai>

[#area_type=class20s&area_code=0748100&pattern=rain_level](https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=0748100&pattern=rain_level)



国土交通省「川の防災情報」

- ・パソコンから <https://www.river.go.jp/>
- ・スマートフォンから <https://river.go.jp/s/>



福島県「河川流域総合情報システム」

- ・パソコン、スマートフォンから

<https://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>



本書の使い方

本書は、いつ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めておきましょう。

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

発行：磐梯町（問い合わせ：総務課 0242-74-1223）

<https://www.town.bandai.fukushima.jp/>

制作・著者：株式会社ゼンリン 郡山営業所

作成：令和5年2月